

正誤表

文中に以下の誤りがありました。訂正しお詫び申し上げます。

書名： 未来をつくる資本主義 [増補改訂版]

頁	行	誤	正
372	1	※掲載漏れ	<p>エピローグ</p> <p>[01] イスラム過激派運動の原因と結果について詳しくは、 Benjamin Barber, <i>Jihad Versus McWorld</i> (New York: Ballantine Books, 1996) [ベンジャミン・バーバー『ジハード対マックワールド——市民社会の夢は終わったのか』(三田出版会, 1997年)], <i>Fear's Empire</i> (New York: W.W. Norton, 2003) [『予防戦争という論理——アメリカはなぜテロとの戦いで苦戦するのか』(阪急コミュニケーションズ, 2004年)] を参照.</p> <p>[02] ある匿名のCIA職員は、イスラムによる世界的反乱の背景にあるのは、欧米の世俗的な民主主義的生活への反発ではなく、むしろ欧米の中東に対する非持続可能な政策と活動であるとする説得力ある議論を展開している。 <i>Imperial Hubris</i> (Washington, D.C.: Brassey's Inc, 2004) [マイケル・ショワー『帝国の傲慢(上・下)』(日経BP社, 2005年)] を参照.</p> <p>[03] 2003年4月11日、ノースカロライナ大学ケナンフラグラー・ビジネススクールでのトーマス・フリードマン氏(『ニューヨークタイムズ』紙)の講演.</p> <p>[04] 欧米のリベラリズム観に潜在する「忌まわしい統合失調症 (hideous schizophrenia)」に関する洞察溢れる議論については、 Paul Berman, <i>Terror and Liberalism</i> (New York: W.W. Norton, 2003)を参照.</p> <p>[05] この件に関しては、 Kent Butts and Jeffrey Reynolds, <i>The Struggle Against Extremist Ideology: Addressing the Conditions that Foster Terrorism</i> (Carlisle Barracks, PA: U.S. Army War College Center for Strategic Leadership, 2005) がいくつかの創造的な考え方を概説している。 Miemi Winn Byrd, “Combating Terrorism: A Socio-Economic Strategy,” <i>JFQ Forum</i>, 41 (2006): 15-19; David Fridovich and Fred Krawchuk, “The Special Operations Forces Indirect Approach,” <i>JFQ Forum</i>, 44 (2007): 24-27も参照.</p>